

歌誌 黄雞「春号（終刊号）」投稿歌

山形 黒沼 貞志

歌題 アンソロジー 2016〜2020 VIII

脱サラを選びし時の分かれ道選ばぬ片えに今のわれなし

また一人逝きたる友を見送りて居残る仲間と来し方語りき

酌み交わす酒の力か友言えり君のスキルは触媒なりと

七十路を越えて始めしストレッチ寝起きの一刻日課となりぬ

ローカル線春の陽射し入る車中にて口開け寝落ちす麗しきひと

何事も立ち上がり遅きふるさとも見かた変えれば長所となれり

これからはポスト・トゥルースと言われても共感湧かぬ団塊世代

震災の十三回忌に下したる稼働延長に不条理覚ゆ

団塊とZ世代のあわいには埋まらぬ価値観深き溝あり

今の世の縮図のごとく座り居るひとつのベンチの老若男女

春浅しコインランドリーに人の無し流るるテロップウクライナ侵攻

人生のクロスポイント映し出す市井の生きざま72時間

天災に人災加わる3・11人災に人災重なるCOVID-19

長引ける非日常の日々日常にコロナ禍広がり変わるQOL

涼しげな狭庭の調べのコンチェルト虫ら知るまじコロナ禍のいま